

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1490700018
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム銀らんの丘
訪問調査日	平成19年9月27日
評価確定日	平成19年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1490700018
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム銀らんの丘
所在地	235-0013 横浜市磯子区広地町11-41 (電話) 045-750-5545

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月31日

## 【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建て, 2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	81,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 450,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.8 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	屏風ヶ浦病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に終結し、横の連携を強化するとともに人材の活用面にも力を入れている。ロケーションはJR根岸駅からバスで7~8分の高級住宅地の中にある。しゃれた個人住宅の多い地域ではあるが、隣がマンションであり建物の違和感は全く無い。名前の由来はこの地域に生息した野生の草花「銀らん」の名前を残す意味で名づけられた。1Fがデイサービス、2F,3Fが2ユニットのグループホームとなっている。インテリアについては気を使っており、1Fは紫、2Fはベージュ、3Fは緑を基調とし、花のオブジェなど配し、心地よい空間提供に気遣っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価ではあるが、秀峰会では横浜市内に多数のグループホームを展開しており、更に、事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしており、統括部長の指導もあって、グループのノウハウを生かしたホーム作りがスムーズに行えている。共通のフォーマットも揃っているため、今年度はホームの定着を中心に活動を展開して行くと言う。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員の意識付けも考えて全職員で記入し、それを踏まえて全体会議で取りまとめ、今後に向けた話し合いを行った。自己評価・外部評価で求められていることを全員で理解し、評価の結果及びプロセスに於ける気付きを今後の改善に活かして行きたい。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は7月18日に第1回を実施した。メンバーは町内会長、老人会会長、地域包括支援センターから保健師の方、ご家族が各ユニット1名づつ、それにホームの関係者で、町内会長さんから老人会会長か民生委員のいずれかと問われ、今回は老人会会長に来て頂いた。今回のテーマは開所からの経過、ホーム内容の説明、秀峰会の説明を中心に行い、加えて夏祭りのご紹介と参加の要請をした。議事で老人会が行っている公園のお掃除に参加させてもらえないかをお伺いしたところ、今は早朝に実施しているがホームの入居者が出来る時間帯のものも検討してみると云って頂くなど和やかで有意義な会であった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族については、毎月、定期的に近況報告を記入しお送りしている。また、来訪時には出来るだけ情報を提供し、ご自身が作られた手工芸品(フラワーアレンジメント、トールペイント、俳画)などを見て頂くなど努めている。ご家族はホームに協力的であるが、多忙で訪問間隔が空くケースもあるので、季節の変わり目の衣類の入れ替えなどやイベントへお誘いして来て頂ける工夫をしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は、このホーム設立が平成18年4月以降であり、各種研修で介護保険法の改訂、特に地域密着についての教育を受けて来たので、始から地域を念頭に入れたホーム作りを進めてきた。それらは町内会への加入、夏祭り等の行事への参加、近隣保育園との交流、地域のコミュニティハウスの活用、身体障害者グループホームとの交流など、開設当初から順調に地域との交流関係が出来ている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	秀峰会のテーマ「天に星、地に花、人に愛」、これに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、職員一人一人が羅針盤と云う名刺第の冊子に纏めて携帯し、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。この入居者の多くが近隣からの入所であり、馴染みの場所との関わりを大切にしながら法人の「連帯の輪を無限に広げていく」という理念の実現に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の読み合わせを行っている。また、全体ミーティングやケースカンファレンスの際の指針としている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、夏祭りや近所の学校で行われる催し物に随時参加させていただいている。少しずつ関係が作れてきている地域の方々や施設(コミュニティー・学校・保育園など)との関わりを深めて行きたい。	○	お散歩に立ち寄る公園のお掃除に参加させていただき方向で検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行いそれをふまえた上で全体会議で今後に向けた話し合いを行った。自己評価・外部評価を行うことにより、求められていることを理解して今後の取り組みに生かして行く。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年7月18日に第1回の運営推進会議を実施。地域の方との情報交換が出来、催し物に参加させていただいた。		第1回会議を終え第2回会議の準備中である。次回は10月下旬を予定している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ行き来する機会は無く、必要ときに電話連絡をさせて頂くのみ状態である。グループホーム連絡会の全体会議に出席し横浜市からの情報を得て、更にサービスの向上に努める。	○	横浜市、磯子区の分担業務を見極めたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	最低月に1度近況報告のお手紙と催し物の際の写真、小遣い出納表を発送している。そのほか、ご家族の面会があった際には手工芸作品を見ていただくなど近況報告している。面会に時間の取れないご家族への報告をより充実させて行きたい。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要事項説明書の中で意見、苦情窓口の説明をしている。また、面会時などでは積極的に聞き取りに努めている。より話し易い関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば速やかに対応して行く。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については致し方なき場合もあるが、独断でホームが運営されないよう職員の意見によく耳を傾けるなど、出来るだけ離職を抑える工夫をしている。チームケアに心がけ代わる場合でも出来る限り利用者へのダメージが少なくなるよう、平均化した馴染みの関係を作るよう配慮している。		今後も継続して実施して行く。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもとより外部からの情報も展示紹介し、様々な研修に参加できるように声を掛けたり、研修に参加できるようシフトを調整するなど配慮をしている。より多くの職員が研修に参加し、その学びを共有できるようなシステムを作りたいと考えている。		今後も継続して配慮して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、地域のブロック会に参加している。今後は全体会議にも出席する予定。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人及びご家族の時間が許す限り、何回でも見学に来ていただいている。ご本人が納得していただけるようご家族と相談し、必要であれば一日体験を実施したいと考えている。1Fにデイがあり、デイ経由で入所なら違和感が薄いので今後期待している。		デイの有効活用を考える。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人の人間として生活を共にしていることを念頭に置き共に支えあう関係作りに努めている。食事やお菓子作りの際に教えを請うたり、格言や慣わしなど、教えていただくことは多い。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのコミュニケーションを大事にし希望に沿った生活が出来るよう努めている。家族から情報を得たり相談させていただくこともある。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を伺い、それに沿った介護計画にしている。居室担当が居て、本人の様子、ご家族からの情報を基にカンファレンスの事前資料をまとめ、カンファレンスで介護計画を検討している。介護計画はセンター方式をベースにしたものである。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化や問題を解決するように、申し送り時に話し合い対応している。月一回のケースカンファレンスでまとめ、それらを踏まえて計画作成を作成しご家族に提示している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護事業部があるので事業所としてその機能の活用が可能であり、また、是非活用すべきである。地域への密着手段として、また地域の認知症の相談窓口としてだけではなく、ここの利用からスムーズな形でのグループホームへの導入など価値は高い。日常ではデイの催しなどに参加し楽しんでいる。(演歌歌手によるコ		今後も継続して活用して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通う方には受診時入所中の状態を報告させていただいている。特定のかかりつけ医の無い方へは協力医療機関を紹介しつきに一回往診が受けられるようにしている。往診時にはご本人が伝えきれないことも毎日ケアしている視点で報告できている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については秀峰会として検討中である。安易に医療連携体制加算を申請し、中止するのは秀峰会としては出来ないので充分体制を検討している。終末期のあり方については医療連携体制加算以前、以後に係わりなく家族、医療、ホームで充分話し合っって方向付けすることにより変わりはなくターミナルケアを見据えた話し合いは今も行っている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の失敗などにも尊厳を損なわないような言葉がけをするよう配慮している。また、個人情報についても守秘義務の徹底に努めている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節に合わせ、入居者の希望にあわせて一日の予定を考えている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の残存能力を有効に活用し、調理や片付けをともにに行い自ら生活していると実感出来るよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への誘いは定期的に行っているが、個人の希望を尊重し、個人に合わせた入浴支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人が力を出し切れるよう役割を分担し、日々の生活を担っていただくよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人から外出の希望がある際は出来る限り希望に添えるような支援体制をとっている。遠出の外出や、長時間の外出には現状充分沿えてはいないが、1ヶ月に1回でも2ヶ月に1回でもゆっくと対応できるような体制作りを検討している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害については理解しているが、安全のためにエレベーターの使用を制限させて頂いている。しかし極力毎日散歩や買い物の希望には応えるように努めている。		鍵をかけないケアを忘れず、常に可能性を模索して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体の職員向け避難訓練の予定している。現状では施設内では全職員が非常口のある場所を周知するにとどまっている。地域との協力体制としては町内会長さんや大家さんに協力を得られるよう働きかけている。また地域で行われる防災訓練などに参加し、地域との協力体制を図って行きたい。	○	運営推進会議等を活用し協力体制を推進して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握及び水分確保は、毎食後と、10時・15時に水分の提供を行うほか、随時嗜好に合わせてお勧めしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの設いに配慮をした花を飾ったり、季節ごとのお飾りをしている。共用スペースの空調、遮光などはご利用者のお声を反映させて行っている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は洋間であるため、当初よりベッド・クローゼットを設えさせて頂いてはいるが他については仏壇やチェスト・テレビなど自由に持ち込んでご本人及び、ご家族の方にしつらえを工夫していただいている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム銀らんの丘
所在地 (県・市町村名)	235-0013 横浜市磯子区広地町11-41
記入者名 (管理者)	森 五百子
記入日	平成 19年 9月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	少しずつ関係が作れてきている地域の方々や施設(コミュニティ・学校・保育園など)との関わりを深めていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	1階のデイサービスには催し物の際、近隣の方も来所されることが多いが、2階・3階にはなかなか立ち寄っていただく機会が無い。夏祭り以外にもお招きする機会を作って行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	お散歩に立ち寄る公園のお掃除に参加させていただく方向で検討している。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	これまでのところ、地域の方に貢献できるようなことは成し得ていない。	○	認知症の介護に関する相談の場を設けていきたい。
---	----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------	---	-------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行いそれをふまえた上で全体会議で今後に向けた話し合いを行った。	○	自己評価・外部評価を行うことにより、求められていることを理解して今後の取り組みに生かしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年7月18日に第1回の運営推進会議を実施。地域の方との情報交換が出来、催し物に参加させていただいた。	○	第1回会議を終え第2回会議の準備中である。次回は10月下旬を予定している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ行き来する機会は無く、必要なときに電話連絡をさせて頂くのみ状態である。	○	グループホーム連絡会の全体会議に出席し横浜市からの情報を得て、更にサービスの向上に努める。今後は、感染症対策などに関して保健所から講習など受けて行きたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ必要性は理解しているが、実施できていない。現在のところ必要性のある入居者は居ない。	○	研修に参加をすると共に情報誌などを参考にして理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時と、日々の会議の中で、職員全体に周知徹底している。日々の言葉かけ一つにも職員間で注意し合う関係づくりをしている。	○	研修に参加しより理解を深め、細やかな対応を心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時、解約時には管理者より繰り返し十分な説明を行っている。また問い合わせがあった際には丁寧に対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス、全体会議の中で利用者の意見として取り上げ、サービスの向上に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	最低月に1度近況報告のお手紙と催し物の際の写真、小遣い出納表を発送している。そのほか、ご家族の面会があった際には手工芸作品を見ていただくなど近況報告している。	○	面会に時間の取れないご家族への報告をより充実させて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要事項説明書の中で意見、苦情窓口の説明をしている。また、面会時などでは積極的に聞き取りに努めている。	○	より話し易い関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば速やかに対応したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、必ず全体会議を実施して業務改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の緊急時やご家族の事情などによって、随時話し合い勤務を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動については致し方なき場合もあるが、運営者の独断でホームが運営されないよう職員の意見によく耳を傾けるなど、出来るだけ離職を抑える工夫をしている。代わる場合は、出来る限り利用者へのダメージが少なくなるよう、徐々に馴染みの関係を作るよう配慮している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもとより外部からの情報も展示紹介し、様々な研修に参加できるように声を掛けたり、研修に参加できるようにシフトを調整するなど配慮をしている。	○	より多くの職員が研修に参加し、その学びを共有できるようなシステムを作りたいと考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、地域のブロック会に参加している。	○	今後は全体会議にも出席する予定。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に運営者は直接、職員の意見を聞く場を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2度、現在の状況や今後に関する希望を聞き、希望に沿うように努めている。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった際は必ずご本人と面談を行い入居後の援助にいかしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の対応に苦慮しつつも、入所させる決心をすることに対して、多くの不安をもたれるご家族が多い。これまでのご家族の苦労を理解することから、入所後のケアの方向が見えてくると考え、お話をよく聞くようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の問題点やニーズをよく聞き、医療の必要性なども考慮した上で、他のサービスの利用も含めて入居の妥当性を検討している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人及びご家族の時間が許す限り、何回でも見学に来ていただいている。 1階のデイサービスを利用している方がそのまま上のグループホームへ入所される場合もある。	○	ご本人が納得していただけるようご家族と相談し、必要であれば一日体験を実施していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人の人間として生活を共にしていることを念頭に置き共に支えあう関係作りに努めている。食事やお菓子作りの際に教えを請うたり、格言や慣わしなど、教えていただくことは多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事のお誘いをはじめ日々の援助についても相談し連絡をとり、ご本人に対してよりよい援助ができるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の事情を十分理解し、ご本人との関係がよく保たれるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会・近所への買い物・電話の取次ぎなどを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は全体の状況を把握した上で食事の席やアクティビティへの誘導など、利用者同士の関わり合いを配慮した環境を設定して見守っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時、入居中の経過や継続が必要なケアについてご家族に提示し、今後の参考にしていただいたり、直接の相談にも対応している。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのコミュニケーションを大事にし希望に沿った生活が出来るよう努めている。家族から情報を得たり相談させていただくこともある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実地調査のほか、独自のアセスメント様式を用いご家族より詳しい生活歴をお聞きしたり、担当ケアマネジャーからも情報を収集する。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の変化、気付きなどを申し送りを利用して周知し、ご本人の有する力を損なわないよう支援している。	○	センター方式の出来る事・出来ないことシートを活用し常に気付きに目を向けたきめ細やかな支援にしていきたい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を伺い、それを基にチームでアイデアを出し合った介護計画にしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化や問題を解決するように、申し送り時に話し合い対応している。月一回のケースカンファレンスでまとめ、それらを踏まえて計画作成を作成しご家族に提示している。	○	ご家族の要望もより取り入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践・結果・気づきを記録に残し、申し送りで共有している。	○	より適切な記録のとり方を学んで行きたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護事業部での催しなどに参加している。 (演歌歌手によるコンサートや演奏会など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティアに作品作りや、地域の文化祭への参加、近隣のコミュニティの利用を行っている。	○	今年度の地域文化祭には作品の出品を予定している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	直接ご入居者様のサービスに具体的に結びついてはいませんが、他のサービスについて相談できる関係が作られている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、運営推進会議以外の行き来は無いが、必要に応じ相談できる関係が作られている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通う方には受診時入所中の状態を報告させていただいている。特定のかかりつけ医の無い方へは協力医療機関を紹介しつきに一回往診が受けられるようにしている。往診時にはご本人が伝えきれないことも毎日ケアしている視点で報告できている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、月に1回の往診医による診察時には、丁寧に相談に乗っていただいている。	○	現在のところ予定は無いが、認知症専門医による講義・指導を受ける機会を設けていきたい。
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の担当看護師及び薬剤師とは細かく情報交換しており、問題発生時などの相談に乗ってもらっている。また、管理者が看護師資格保持者なため、日常の健康管理や、協力医療機関との連携に活用している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には介護サマリーを送り、退院時には看護サマリーをもらって継続したケアが出来るようにしている。また、協力病院に入院した場合は往診で馴染みの担当看護師が、フォローしてくれている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期については受け入れ態勢が十分整っているとはいえない。	○	協力医療連携との関係を充実させていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	普段より協力医療機関との連携の基、ご本人の様子などを的確に伝えるよう支援している。状態の変化などについても、随時電話などで相談している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居する場合には事前面談に立会うなどして、入居中の経過や継続が必要なケアについて提示し、今後の参考にさせていただいている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の失敗などにも尊厳を損なわないような言葉かけをするよう配慮している。また、個人情報についても守秘義務の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言語表現に頼らずさまざまな機会を通じて入居者の思いの把握に努めている。得意なこと、好きなことを大切にかかわりを持つようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節に合わせ、入居者の希望にあわせて一日の予定を考えている。例えば散歩について、夏は暑くなる前に朝一番で出かけ、冬はもっとも暖かい時間を見計らう等。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回程訪問理容を招いているが、徒歩2分のところにも美容院があり希望時気軽に出かけられる環境にある。又お化粧品やマニキュアなどご本人の好むおしゃれをしていただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の残存能力を有効に活用し、調理や片付けをともに行い自ら生活していると実感出来るよう支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好を出来る限り尊重している。現在喫煙される方は居られないが、飲酒は時々たのしまれている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	(○印)	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人ずつ、その方に合わせた用具の使用・誘導の仕方を工夫しているが、清潔を保つ事と自尊心への配慮を大切に考えて支援している。		
	○入浴を楽しむことができる支援	入浴への誘いは定期的に行っているが、個人の希望を尊重		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への誘いは定期的に行っているか、個人の希望を尊重し、個人に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否が続く方に関しては誘導・脱衣・浴室の対応と連携し、ご本人の受け入れやすい状況を工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に、お一人お一人への声かけによって参加を勧め、ご本人の自己決定を優先した支援となるようし、自由に休憩が取れるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人が力を出し切れるよう役割を分担し、日々の生活を担っていただくよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物や外出を行えるような体制をとっており、好みの品を買いに出かけたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人から外出の希望がある際は出来る限り希望に添えるような支援体制をとっている。例えば近くの特養に転居した方の所へ面会に行くなどの希望にも対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各ユニットでの外出や、ご家族の協力を得ての個別の外出は随時行えている。	○	職員が個別に1対1で対応し、ご本人の望む様に一日を過ごしていただくような企画を実行したい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話し合い、必要に応じて許容範囲を決めることもあるが、電話や手紙は自由にやり取りしていただいている。入居者宛の郵便も多く、届いている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設側の支援や行事を優先させるのではなく、ご家族や顔馴染みの方との関係が優先されるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	体調不良時においても、職員の細かな訪室などで拘束を行わないケアを行っている。	○	講習会に参加しより理解を深めて、全職員に勉強会などで周知する。(横浜市主催の講習会に参加予定)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害については理解しているが、安全のためにエレベーターの使用を制限させて頂いている。しかし極力毎日散歩や買い物の希望には応えるように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	午前・午後にお茶の時間を設け、一緒に水分補給を行っていただきながら日々の変化の把握や安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と判断されたものは、鍵のかかる所へ預かり、使用時は見守るなどして安全に注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人のケアプランの中で、個別に注意のポイントがあれば示す。また、些細なこともヒヤリハットに記載し、皆でともに注意するように努めている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルはあるが、訓練などは出来ていない。しかし、個々の職員で講習は受けている。	○	講習を受けた職員から、他の職員たちへ伝達する機会を設けて行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内では全職員が非常口のある場所を周知することどまっている。地域との協力体制としては町内会長さんや大家さんに協力を得られるよう働きかけている。	○	施設全体の職員向け避難訓練の予定している。また地域で行われる防災訓練などに参加し、地域との協力体制を図って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	よりその方らしく暮らしていただくために、起こり得るリスクをご家族に説明し、職員間では出来る限り安全にその方らしい生活を支援する方策について話し合い、ご家族に伝えている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の変化、気付きその対応などを、情報として申し送りを利用し共有し、ご本人の有する力を損なわないよう支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一つ一つの薬の細かな作用までは把握できていないが、誰が何の目的で服薬しているか、何に気をつけて観察するべきかは理解しており(例えば降圧剤を服用している人は毎日血圧測定するなど)、変化に応じて医師に報告するなどの判断が出来る。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になる方が多い傾向は承知しており、体操・散歩・繊維質の摂取、水分の確保などに、常に注意している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立・声かけ・一部介助など個人の能力に沿った支援を行い、口腔衛生に努めている。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握及び水分確保は、毎食後と、10時・15時に水分の提供を行うほか、随時嗜好に合わせてお勧めしている。		
	○感染症予防	現在のところ予防策は...		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	現在のところ取決めやマニュアルは作成出来ていないが、感染症予防のためにトイレの手拭はペーパータオルを使用するなどの対応は進めている。また、横浜市主催の講習にも参加している。	○	今後も機会があるごとに講習などで知識を深め、マニュアルを作成したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	野菜・鮮魚・お肉に関しては毎日の購入とし新鮮なものを召し上がっていただいている。また、定期的に冷蔵庫内の衛生管理を行い食の安全にも配慮している。台所などの衛生面では直接の調理器具は毎日消毒を行っている。		

## 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### (1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上(2・3階にあるため)、エレベーターを使用せざるを得ない。玄関は1階デイサービスと共用だが、温かく声かけ案内していただいている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの設いに配慮をした花を飾ったり、季節ごとのお飾りをしている。共用スペースの空調、遮光などはご利用者のお声を反映させて行っている。	○	今後も法人の協力を得ながら、季節感を大切に心地よい環境を提供して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同で利用できるスペースをいくつかに分け、気の合った方たちでの語らいの場・共に作業する場など、それぞれにご利用いただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は洋間であるため、当初よりベッド・クローゼットを設えさせて頂いてはいるが他については仏壇やチェスト・テレビなど自由に持ち込んでご本人及び、ご家族の方につらえを工夫していただいている。		
	○換気・空調の配慮	ご利用者様一人ひとりの気付きによって居室の共用スペース、		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ご利用者様一人ひとりの気付きによつて居室や共用スペースの空調管理をしたり、遮光など適宜行っていただいている。各居室の空調管理はご利用者と相談しながら適温に配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全室に電動ベットとベット柵を備え自立した離床が行えるようにしている。フロアーに手すりをつけず、必要時ワーカーが手引きなどで対応している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>アクティビティーで自室の表札を作成し、それを確認して自分の部屋を覚えていただくなどの試みを行っている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダはないが、建物の1階はデイサービスの世話する草花などがいつも楽しませてもらえる。</p>	○	1階の一部に野菜などの栽培を試みて行きたいと考えている。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)